

⑫ 公開特許公報(A) 平2-202808

⑬ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成2年(1990)8月10日

A 61 K 7/00
 A 23 L 1/212
 1/30
 A 61 K 7/06
 7/16
 7/32
 7/50
 35/78

ADD C

K 7306-4C
 A 8828-4B
 B 8114-4B
 8314-4C
 6971-4C
 6971-4C
 6971-4C
 8413-4C

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全6頁)

⑮ 発明の名称 キウイ果実エキス溶液又はその濃縮エキス

⑯ 特 願 平1-22991

⑰ 出 願 平1(1989)1月31日

⑱ 発 明 者 坪 井 誠 岐阜県大垣市宮町1丁目25番地
 ⑱ 発 明 者 安 藤 裕 岐阜県大垣市三塚町998番地
 ⑱ 発 明 者 松 井 建 次 岐阜県岐阜市加野1677番地7号
 ⑱ 発 明 者 小 島 弘 之 岐阜県各務原市下中屋町2丁目224番地
 ⑲ 出 願 人 一丸フアルコス株式会 岐阜県山県郡高富町高富337番地
 社

明 細 書

1. 発明の名称

キウイ果実エキス溶液又はその濃縮エキス

2. 特許請求の範囲

〔1〕

加熱処理後のキウイ果実に対して、約2倍量の水を加えて粉碎した後、ろ過して得られた粗液に対して、同量のエタノールを加えて攪拌後、静置、熟成し、次に、ろ過して得られた溶液中に固型分として10%以上を含有することを特徴とする、キウイ果実エキス溶液又はその濃縮エキス。

3. 発明の詳細な説明

〔イ〕発明の目的

本発明は、キウイ果実(果汁、果肉)から得られる改良されたエキス含有溶液、又はその濃縮エキスに関する。

「産業上の利用分野」

本発明によるキウイ果実エキス溶液、又はその濃縮エキスは、水の系中に配合して、清澄性に優れると共に、さらに、水とエタノールの混液中に

配合しても、清澄性に優れ、濁り、沈殿の発生が極めて少ないことが特徴である。

よって、本発明によるエキス溶液、又はその濃縮エキスは、あらゆる形態の肌用、頭髮用の化粧品(医薬部外品類に該当する薬用化粧品、歯みがき、口中清涼、消臭剤、及び固形状、粒状、透明状の肌又は頭髮用石鹸類、又は洗浄剤などを含む)に配合して用いることが出来ると共に、あらゆる形態に加えられた食品、菓子、冷菓、プリン、ゼリー、さらに栄養飲料、炭酸飲料、清涼飲料等に配合して用いることが出来る。

「従来技術」

(a)含有成分に関する文献調査

キウイ果実中に含まれる主な成分としては、「新編 日本食品事典」昭和57年4月5日発行 医歯薬出版の439ページに平均値(含量)が示されている。(次表、^{表1}表)